

## 湘南の由来とエリアを探る

### その3

相模原市・湘南村/湘南小学校

文責：和田精二

2017,04,15



図1 小倉橋から相模川下流を眺望する (H29,4)

湘南小学校の位置は右側丹沢山地の山裾が終わる地点

### 3-1 なぜ「湘南村」が相模原市に？

神奈川県内最大の河川である相模川は、富士山麓の山中湖とその北の忍野八海（湧水池）を水源とし、笹子川をあわせて東へ流れ、桂川から相模川へ名前を変えた後、相模湖・津久井湖を経て平野部を下り、河口付近で馬入川へと3度名前を変えてから110キロの道のりを終え相模湾へ流れ込みます。途中、小倉橋付近で関東山地から相模野台地へと周囲の地形が一変します。一挙に川幅を拡げ、幅500mほどの低地を流れ下りますが、地形が一変するこの辺りにはかつて「湘南村」が存在していました。時代はかわり、現在は政令指定都市相模原市緑区の一地域となっています。

湘南の由来について論議するときに必ず出てくるのが、相模原市に66年間にわたって存在した「湘南村」と、現存している「湘南小学校」です。「湘南村」は明治22（1889）年の町村制施行により小倉村と葉山島村が合併して誕生した村です

が、なぜ海から離れた相模原市のど真ん中に「湘南村」が誕生したのでしょうか？誰が「湘南村」という村名を発案したのでしょうか？今回はその辺りを探ってみました。

### 3-2 「湘南村」のロケーションは？

湘南村となる前の小倉村について調べてみました。まず、地形ですが、相模川は関東山地の峡谷から平地に出てくると一挙に平野部が開け、かながわ橋100選に選定されている小倉橋をくぐります。かつてはこの付近に小倉の渡しがあり、人間を運ぶ渡し船や牛馬や荷物を運ぶ馬船が小倉村と川尻村を結び交通の拠点として機能しました。小倉の渡し付近には支流の串川が相模川に合流する辺りに河岸場もあり、舟運の基地として丹沢山地から切り出された木材を筏に組んで送り出していました。河岸場は高瀬舟と呼ばれる帆掛け船を活用した物産の集積地としても大きな役割を果たした訳です。

また、八王子を経てやって来る関東一円の大山参詣の道者を、小倉から厚木まで船に乗せて運んでいた時代もあり、その収益が莫大であったために、明治維新後に川をはさんだ川尻村と航行権を争って訴訟事件を起こしています。相模川とともに歩んできた村、それが小倉村、後の「湘南村」です。

### 3-3 「湘南村」を発案した馬場健二とは？

小倉村と葉山島村が合併したのは、明治21（1888）年4月に明治政府が大規模な町村合併を推進するために交付した「市制・町村制」がきっかけとなりました。城山町域では、川尻村が1村で独立村に、三井村と中沢村が合併して三沢村に、小倉村と葉山島村が合併して湘南村になるという前提で村会議員選挙が行われ湘南村が発足しましたが、村会議員選挙で一波乱起きています。村の共有財産を巡る対立でしたが、その後は波乱もなく湘南村が発足、新しい村長に田野倉仙蔵が選出されました。同年、小倉村有志惣代の4人が戸長の馬場健二に対して「辞職勧告書」を提出しましたが、なんとか治まったようです。こうしたあわただしい動きの中で湘南村という呼称が決定されたのです。さて、その湘南村呼称決定の経緯と名称の発案者ですが、「城山町史7」の中に以下のような記述が出てきます。

小倉村と葉山島村は合併し湘南村として発足した。名称の由来は相模川を文人たちが「湘江」と呼んでいたところか

ら湘江の南にある2か村が1つになることから湘南という名が生まれた、と伝えられている。発案者は戸長で小倉村に住んでいた馬場健二で、かれは漢詩人大沼枕山の下で塾生として修業を積んだ人であった。

「城山町史7通史編・近現代」

この簡潔な説明文が書籍やネットに登場する「湘南村」誕生に関わる言説の発信源と思われる。「湘南村」命名に関するさらに詳しい記述を探していたところ、ありました！「城山風土記 第3巻・90歳の雑記帳」（城山町史編さん委員会、平成7.3）、です。馬場健二の孫で、晩年に城山町文化財保護員や城山町議会議員を務めた馬場厚（1905-1995）にスポットを当て、城山町の歴史を多面的に記録した資料です。残念ながら湘南村命名について直接記されていませんが、馬場健二という人物や命名の周辺事情について知ることが出来ますので、以下に馬場厚が記した文章の一部を引用します。

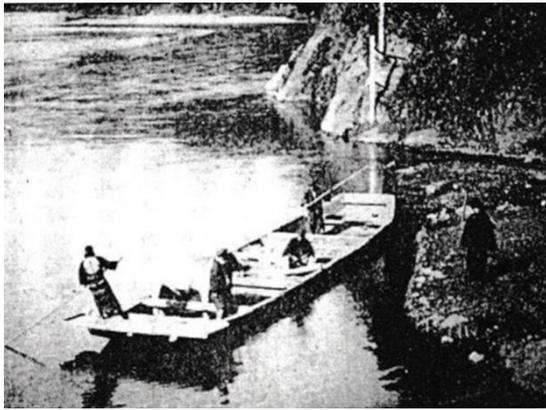


図2 小倉の渡し船 出典「城山町史」

### 3-4 孫が語る馬場健二の素顔

『当時の事は湘南村の命名の事情ぐらいいしか祖父の口から聞いたことがないので、勿論上記した辞職勧告について何等聞き知っていることはない。祖父もまだ30代の若さであるため円熟した時代とは思えない。』

『明治の初年としては田舎者としては学問は多くさせてもらった方であろう。大沼枕山の塾へ入る頃、慶応へ入るとどちらが好きな方へ行けと言われたそうで、漢詩人のへ入ったことを悔やんでいたらしいことも聞いた。事実同じ頃、又野の尾崎号堂が慶応にいたことを思うと私共にもそう思えるし、枕山の塾にいる頃にも今更漢学を学んで何の益があるといって叱られたということがあったという。義兄川村正平が大沼塾へ入塾の際連れて行っているが、自分の子勇は牧野伸顕や

津田梅子等と留学させているのにと不思議に思われる事情もあった事であろう。』

戸長という言葉が出てきますが、戸長とは明治4年に制定された従来の庄屋・名主に代わる村役人の呼称で、地域の名望家から選出される場合が多かっただけに、教養面でも造詣が深い人物が多かったようです。馬場健二の場合も、文末に略歴を付記しましたが、幼少時より行儀修行、習字修行、漢字修行を積んでいることが示されています。興味深いのは馬場健二が大沼枕山に入門したことを悔いている箇所、近隣の村から慶応に進学した尾崎号堂を意識していた辺りも窺えます。

### 3-5 「湘南村」を中国の「湘南」に見立て

さて、問題の「湘南」命名との関わりですが、「城山町史」には、馬場健二は漢詩人大沼枕山の下で塾生として修業を積んだとあります。この大沼枕山は幕末から維新时期にかけて、抒情的な詩風により、江戸詩壇の中核として業績を残した漢詩人として知られています。馬場は入門の翌年に大沼塾の塾長になるほど優秀だったので、文人が相模川を「湘江」と称していることも、中国の湖南省・洞庭湖に注ぐ「湘川」の南の風光明媚な地域が「湘南」と称されていることも、当然知っていたはずで、村民にもそうした話を伝え聞きしていた人間も少なからずいた可能性があります。

とすれば、馬場が、合併する小倉村と葉山島村を中国の風光明媚な景勝地「湘南」に見立てれば、地元愛に燃える両村民の支持を取り付けられると読んだと考えることも、大沼塾の元塾長の提案ならば村民に対し説得力があったと考えることも、腑に落ちるように思えます。前述したように、湘南村の誕生については選挙時に村の共有財産をめぐる一歩乱あったほどです。新らしい村名を決めることも容易でなかったと思われるかもしれませんが、どうやら「湘南村」命名は発想の良さが幸いしてつつがなく決まってしまった、と考えてもよさそうです。

その後、1995年に湘南村、川尻村、三沢村（中沢）が合併して城山町となった後、2007年に相模原市に編入されて相模原市城山町と変わり、2010年の政令指定都市移行と共に相模原市緑区の1地域となって現在に至っています。

### 3-6、健在！相模原市立「湘南」小学校

『ゆかりが招く城山を 仰ぐ小倉と葉山島  
結ぶさすなの人の和に そのうに育つ若草と  
伸びゆく湘南健児われら』

「湘南健児われら」というさわやかな歌詞を校歌の1節にもつ湘南小学校は小倉村と葉山島村の合併後、それぞれの村に別々にあった小学校が統合され、明治39（1906）年5月14日に湘南村立尋常高等湘南小学校として設立されました。設置区域と通学範囲を湘南村一円として2学級編成でスタート、翌40年2月15日に両村の中間地点である丹沢山地の山裾、相模川の淵に校舎が新築され、3月29日に両村の旧校舎から移転、翌30日に高等科を併置しました。ところがその年の8月24日、津久井地方では50年来未曾有の洪水と言われた相模



図3 明治時代の湘南小学校 出典「城山風土記」



図4 現在の湘南小学校（校舎右側の崖下に相模川H29.4）S

川の氾濫により校舎流失という不運に見舞われました。財政の貧弱な小村では復旧がままならず、古い建物を移築・修復し、4学級の複式編成で授業が継続されました。その後も相模川の大洪水で校舎がたびたび危険に陥りましたが村民の努力で危機を避けることが出来たと言います。現在の鉄筋3階建ての

校舎は昭和54（1979）年に完成した建物です。

通学は小倉・葉山島地区共に距離が長く、低学年には楽ではなかったようですが、往復の道からは薪や炭やそだこうと呼ばれた堤防材を積んだ運送船（平田船という高瀬舟の一種）や漕ぎ下る筏が相模川を行く光景が見えたり、帰りには帆をはらませた船が上がってくるのを眺めることが出来たりして、のどかな相模川風景が展開されていました。

一方、湘南村は村をあげて教育に力を注いだ結果、早くから新聞に教育模範村として紹介されてきましたが、昭和40年には学齢児童の就学率99%、在籍児童の出席率95%という好成績をあげて表彰状を授与し、文字通り「伸びゆく湘南健児」を天下に示しました。もともと在校数の少ない小学校でしたが、現在も在校生が年々減少し、現在は全学年で21名（2016）となっていますが、歴史のある「湘南」の名称を相模原市立「湘南」小学校として守っています。

### 3-7、「湘南村」の「湘南寺」の歴史

城山町には「湘南小学校」とともに「湘南村」に強く関係して来た「湘南寺」（緑区小倉）があります。かつての小倉村には臨済宗建長寺派の東光寺・西光寺・常照寺がありましたが、明治41（1908）年に東光寺と常照寺が合併して東照寺となり、さらに昭和25年（1950）年に西光寺と合併して湘南寺となりました。この小倉山湘南寺という名称は、当時の村名である「湘南村」に由来していることを湘南寺ご住職に確認させていただきました。



図5 小倉山湘南寺（湘南寺の許可を得てHPから転載）

西光寺の過去帳に開山が長久4年（1043）とありますから、今から974年も前に寺が創立されています。小倉村では最も古い開山と言われていますが、1043年といえば、平安時代の前9年の役の少し前ですが、そのころ小倉村は既に成立してい

たと想像してもあながち無理ではないと馬場厚は語っています。臨済宗は禅宗のひとつで、建長寺が建長寺派の大本山ですから、「湘南」を禅宗を基盤にして学んでいけたらと考えると今回の現地調査にも何やら有難い縁を感じた次第です。

### 3-8 川のイメージで始まった「湘南」



図6 新小倉橋から相模川上流を眺める (H29,4)

こうして相模原市のど真ん中に「湘南村」が誕生したのですが、ここで注目されるのは、われわれの感覚と違い、「湘南」が川のイメージとして扱われていることです。「湘南」が海のイメージになったのは明治以降で、もともと湘南は相模川という風光明媚な川と共にあったことを認識しておきたいと思います。今回の現地調査でお会いした湘南寺のご住職から「湘南村」命名について昔は異論もあったという話を聞くことが出来ました。相模湾と相模川、洞庭湖と湘江を比較してみると両者では川の流れが南北逆になるため、見立ては成立しないという意見もあったと言います。方角はさておいて、洞庭湖を相模湾に見立てている訳ですから、相模川に沿った平野部全体を「湘南」に見立てることになり、なかなか雄大な話でもあります。

そこで想起されるのが先回ご紹介した湘南の由来について言及した書籍の中の1節なので引用しておきます。

『相模国は厳然として、存在する。そして、その相模国のど真ん中を大きく東西に二分して南北にゆったりと流れる川がある。相模国（神奈川県）最大の川、相模川である。相模国の成立以前、この流域を支配していた相武（さがむ）国の時代から、古来どこの川でもそうであるように、相模川も重要な物資、文化の運搬路であった。県北の丹沢、津久井の村々が、河口の須賀湊（現平塚市域）を経由し、東は江戸、西は伊豆下田と結

ばれていたのだ。相模川の右岸に展開する広大な沖積平野と左岸に広がる肥沃な相模野大地。富が約束され、加えて、富士山を背景とした、丹沢、箱根、そして長い海岸線など四季おりおりの美しい自然があった。相模川は豊かな水量をたたえ、夏の陽にキラキラと輝きながら永遠へと流れ下った。相模国における相模川存在はそれほど圧倒的だった。そう考えると、中国の湘江をいきなりこの相模川に比することも可能ではなかっただろうか。川が重要であった時代なら、いくら湘南が文人の気まぐれから生まれたとはいえ、湘江＝相模川、湘南＝相模川一帯と、素直に考えるのが自然だと思う。相模川は津久井郡で平野部に入るから、風光明媚でさえあるのなら、もはやこの地点から湘南だったと考えたていい。そうすると相模国は全体が湘南有資格地域ということになる。これが私のいう“ふるい湘南”のことである。』「湘南の逆襲」みつはし貴義

#### 参考情報

馬場健二略歴（「城山風土記3」から部分抜粋）

- ・嘉永6年実家津久井郡若柳村山口専右衛門方に生る。
- ・文久2年に武品高尾山隠居寺小名路金南寺方丈に就き行儀修行すること2年。
- ・文久4年12歳の時同郡小倉村祖母生家馬場家を相続転籍。
- ・幼時より三か木村五左衛門先生に漢字又拈月先生に習字を修行す。
- ・慶応元年元江戸表江川太郎左衛門深泉座屋敷内川村恵十郎義兄の許へ若党に住込む。
- ・慶応4年江戸表戦争騒ぎ人身恐擢の為田舎に帰省方安心と決め川村勇と同道帰省す。
- ・明治2年上野宏三郎先生に就き漢字を修行す。
- ・同2年健二と改名す。
- ・同3年沢井村小学校教授員となること半年。
- ・同6年負笈して出京大沼枕山先生に就き修行。
- ・同7年大沼塾の塾長となる。
- ・同10年辞して帰省。
- ・同11年小倉村馬込に移住。
- ・同11年東京日本橋室町宮田伝兵衛長女恵子と結婚入籍す。
- ・同13年恵子離縁復籍す。
- ・同13年小倉に帰る。
- ・同13年野倉仙蔵妹ホノと結婚入籍す。
- ・同15年小倉村議員となる。
- ・同16年小倉村衛生委員となる。
- ・同17年小倉村学区学務委員となる。

- ・同 20 年川尻村外 3 か村連合戸長となる。判任官 10 等。
- ・同 22 年小倉葉山島村合村し湘南村長となる。
- ・同 36 年津久井郡会議員当選。
- ・同 36 年同参事会員となる。
- ・同 37 年津久井郡農会名誉会員に推薦せらる。
- ・同 40 年同郡会議員及び参事会員再選
- ・同 41 年湘南村産業組合を設立し理事兼組合長に当選
- ・大正 10 年自宅に於いて死亡す。69 歳。

#### 出典資料

- ・城山町史 7 通史編・近現代 城山町 1997
- ・城山風土記・近現代編 城山町史編さん委員会 1991
- ・城山風土記第 3 号・90 歳の雑記帳 城山町史編さん委員会  
1995
- ・相模川歴史ウォーク 前川清治 東京新聞出版局 2005
- ・湘南の逆襲 みつはし貴義 神奈川新聞社 1987